若い時の思い出

許田　重之

先日、県医師会から、なんか自伝風の随筆でもとの御依頼がありましたので、作文の苦手な私ですが思いきってペンをとりました。

医学部の学生の時には青森県の岩手山に登り、十和田湖で遊び、金沢大学時代は、立山、白山、妙好山と、楽しかった思い出がいっぱいです。

中でも妙好山に登った時、前の晩に積もった雪の上に残された親子の熊の足跡に「キモ」をつぶしました。

沖縄では同じ職場の男女数人と一緒に石ころだらけの「嘉津宇岳」の山頂でお昼のお弁当を食べたことが、懐かしく思い出されます。

今年八月で満九十才になります。

頭も手足も不自由なく動いています。

遠出といえば月に一度、病院に行く位で自宅では手元にある本を読み返して楽しんでいます。

愛楽園に二ヶ年居ました。午前十一時三十分頃の昼食の時間にラジオから流れていたコマーシャルソングに「ナリス、ナリス、ナリスコンク」という曲があって、今でも、時々、なんとなく口ずさんでいます。

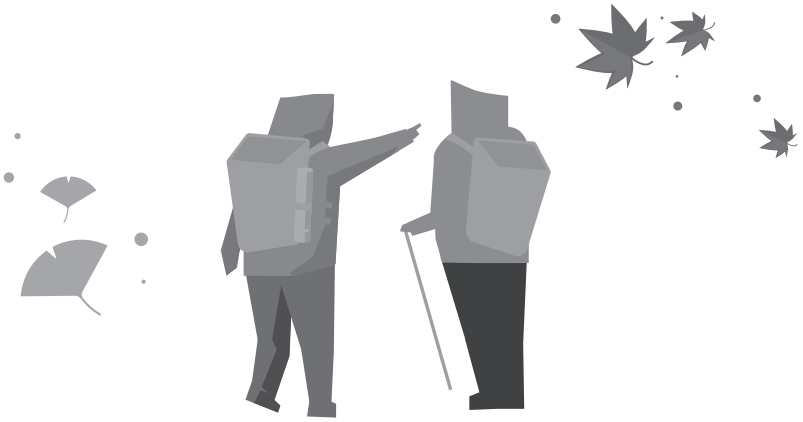
那覇病院に十年程、内科医として勤めました。当時は県内に病院の数も少なく診療や当直等、忙しい日々を送っていました。それでも、若い、希望に燃えた医師の集まりであったので今でもあの頃のことが思い出されます。

その後、那覇市楚辺で、許田内科医院を三十七年間、開業しました。

九十才になっても、身の回りのことがスムーズに出来ているのは、自慢するわけではないが、毎日の規則正しい生活にあると考えます。

起床　朝六時三十分、就寝　午後十時　三度の食事も、ほぼ決まった時間に取っています。これまでは毎日一時間余りかけてウォーキングを続けていましたがさすがに今は無理のようです。

最近はお昼寝タイムも設けています。

これからも元気で過ごしたいと思っています。

県医師会の御活躍を祈っております。